

## テーマ

## ◎「中学校におけるこれからの部活動の在り方について」

- (1) 改革推進期間の部活動改革の取組等について
- (2) 部活動の教育的意義と課題の再考
- (3) 東京都の中学校におけるこれからの部活動の在り方について

## 委員からの発言概要

## 【今後の取組等】

① これまでの部活動の地域展開等の取組の状況を踏まえて、都教育委員会として、今後は、どのような対応を進めることが適切か。

- 設置数が多い種目や分野は、すぐに地域へ移行するのは難しいのではないか。
- 都としてガイドラインや推進計画を作成し、方向性を示してほしい。

## 【地域での対応の在り方】

② 部活動を地域展開等により実施していく場合に、場所や人材のほか、財源を含めた受け皿としての仕組みに係る課題をどう考えるべきか。

- 地域展開を進められるところは進める。また、地域展開が難しい種目・分野や地域は、地域連携も必要である。
- 地域によっては、企業や大学等の有無が異なるため、地域展開を改革実行期間の中で、全ての競技を、全ての地域で実施するのは難しい。
- 聾学校の指導者は、コミュニケーションで手話等の専門性が必要になる。

## 【部活動の意義】

③ 現状を踏まえた上で、これからの部活動に係る教育面などの意義を、どう考えていくべきか。

- 教育的意義を考えた時、学校教育がどこまで、どのように関わるのか。併せて教員の働き方改革をどのように推進していかなければいけないのかということが重要である。
- 日常の学校生活と部活動をトータルし、生徒を多面的に捉え、指導できるメリットがある。

## 【改革の進め方】

④ 国の「改革実行期間」の中で着実な取組を進めることができ、どの程度まで可能となり、そのための都教育委員会としてのサポートを、どう行うべきか。

- 改革は、できることをできる地域からやっていくのがよい。
- 子供たちの活動の機会が消失するようなことがあってはならない。
- 改革は、長いスパンで考える必要がある。
- 子供を第一に考えて欲しい。

## 【生徒等の意向】

⑤ 部活動に係る生徒や保護者等の考え方を踏まえ、今後の地域展開等をどのようなものとするのが適切か。

- 部活動は、居場所づくりにもなっており、福祉的な役割としても大切である。
- 生徒の多面的な姿を学校と地域で情報共有していく必要がある。

## 【拠点化の動き】

⑥ 部活動の拠点化の動きが出ている中で、どのような地域展開等を進めていくことが適切か。

- 拠点校のように効率よくやっていくやり方もある。
- 拠点校の取組で、生徒のニーズに合わせた活動ができるようになった。
- 拠点校は、自治体が主体となって動いてくれるとやりやすい。

## 【働き方改革との関係】

⑦ 中学校の教員には、部活動の指導に携わりたいとの意向がある中で、現場の「働き方改革」との関係をどのように捉えるべきか。

- 部活動指導員の拡充などの負担軽減策は、一律の対応ではなく、各学校の実態に応じて弾力的に扱えるようにするとよい。
- 指導を希望する教員の「やりがい」も生かしていく。

## 【地域クラブとの連携】

⑧ 地域クラブとの連携等を効果的に進める方法、エリアの実情に応じた受け皿をどのように作り上げることがよいのか。

- 地域スポーツクラブが主になって行う活動等も、できるところから少しづつ模索していくような形がとればよい。
- 地域クラブが認証を受けることで、信頼を得られるようになることも考えられる。
- 教育委員会と首長部局で同じビジョンをもって取り組むことが必要である。

## → 【座長のまとめ（概要）】

- プレーヤーズセンタードの考え方で、子供たちを真ん中において、しっかりと支える。周りの人たちも連携を図り、お互いが高まり合うような関係づくりが重要である。
- 地域展開と地域連携をバランスよく、東京都らしい、地域が弾力性をもった取組を進められるよう、丁寧に検討する必要がある。
- 東京都としてのガイドライン、推進計画の作成の必要性について、委員から意見があつたことを受け、検討いただきたい。